

## 平成19年度 福井県公共事業等評価委員会 議事概要

開催日時 平成20年1月18日(金) 10:00~12:30

開催場所 県庁 特別会議室

出席者

- (1) 委員 10名のうち8名出席
- |        |                   |
|--------|-------------------|
| 桑原 美香  | 福井県立大学経済学部講師      |
| 高津 靖生  | NPO法人田んぼの学校越前大野会長 |
| 竹田 裕喜子 | 坂井市教育委員           |
| 福原 輝幸  | 福井大学工学部教授         |
| 水上 聡子  | アルマス・バイオコスモス研究所代表 |
| 葉袋 奈美子 | 福井大学工学部講師         |
| 宮崎 和彦  | 福井商工会議所理事・事務局長    |
| 吉岡 隆治  | 第一織物(株)代表取締役      |
- (2) 事務局 (農林水産部) 吉田農林水産部長  
中川農村振興課農村整備室長、白崎農林水産振興課参事  
(土木部) 中安土木部長、幸道道路建設課長、桑野河川課長、  
橋本港湾空港課長、加藤都市整備課長  
(総務部) 国久財務企画課参事

議事概要

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 会長選出  
福原輝幸委員を推薦したい旨の発言があり、承認される。
- (4) 再評価対象事業の審議  
《 資料 ... 再評価対象事業一覧表、再評価調書(別添資料)ほか 》
- 〔農林水産部評価対象事業について〕  
(会 長) では、まず、農林水産部の再評価対象1事業について説明を求める。

[畑地帯総合整備事業(三里浜砂丘地)について]

〔事務局から 1の事業内容を説明〕

- (委 員) 当地区はラッキョウが名産であるが、販売戦略やラッキョウのアピールをもっと地元の方がしてほしいという気持ちがある。そのためにもこの事業を推進してほしいが、耕作者の将来的な展望はどうか。

(事務局) 農業者の高齢化は当地区に限らず問題となっているが、幸いにもこの地域は認定農業者が根づいている。一方で、ラッキョウは根切りという細かい作業があり、その機械化の画期的な方法が見つかっていない。機械化がものになると作付けはもっと広がると思うが、手作業に頼らざるをえないところが多い。

しかし三里浜特産農協自らがラッキョウの加工の他に耕作もしているので、期待が大きいと思う。

(委員) 事業は全般的に評価できるが、心配な点がいくつかある。一つは後継者の問題である。この地区内でいくつもの生産物があるが、生産物ごとに農家が分かれているのか、それとも全体的にやっているのか。販売価格が直接の収益につながっており、それが農業の継続に関係する。将来を見たときに必ずしも全ての作物がいいわけではないのではないのか。それに応じた細かい設備投資がなされているのかが気になる。

もう一点は設備投資についてであるが、防砂ネットは耐用年数がそれほど長くないと思う。砂防ネットの次の更新の時がどうなるのかも心配である。次は誰が更新するのか。受益者負担となるのか県が負担するのか、そこまで考えてやっていかないといけない。商売として成り立たないと後継者問題も解決しない。

(事務局) 単一作物では経営が安定しないので、新たな作物を常に取り入れながらやっている。ラッキョウを専業とする農家は多くはなく、メロンなど付加価値の高いものへ比率が移行している。

また、耐用年数の問題については、施設によって年数が違うが、メンテナンスや再整備ということが必要となってくる。公費投入を考えていくことが必要な場合もあるし、経営面でしっかりしてくれば自前ですることもある。そのときの農業政策の状況等により考えていく。

防砂ネットの耐用年数については、通常の耐用年数は10年から15年程度であるが、50年代に整備した物で現在も使用しているものもある。今回の事業では支柱の間伐材に防腐処理をしているので20年程度である。県が整備する防砂ネットは道に面した場所など公的な箇所であり、畑等個人の敷地は農家が自分で更新もしている。支柱はコスト縮減の観点から、鉄製でなく県産の間伐材を使用している。

作付については、スイカ、メロンの後に秋ダイコンなど、連作障害を防ぎながら農家がローテーションを組んで多種類を生産している。

(委員) 事業期間が10数年で耐用年数も10年というのはいかがなものか。次のことを考えずにやっていることが心配である。

(委員) 防砂ネットと別に防風林も新たに植樹していくのか。

(事務局) 現在の防風林の横には新たに木を植える用地が無い。

(委員) 防風林はいつからあるのか。

(事務局) 昭和50年代初めに事業を実施したときからである。

(委員) 防風林が成長して地面近くの風を防げないということが30年たって分かったのであれば、次は30年、40年を見越して何をしたら良いのかを考え、できれば環境や景観にやさしいものを整備できないのか。昔から防風林がある所では、木が大きくなりすぎないように定期的にメンテナンスを行っている所もある。ここについてもメンテナンスという考え方で、定期的に背丈が高くならないように生育を促していく、伐採していく、背が大きくなりすぎないように

間に植えていくなどができないのか。

(事務局) 防風林は高さ 20 メートルぐらいになるが、低いものだと上の風を止められず砂が飛んでいってしまう。上を防風林で止めて枝下の方をネットで止めた  
たい。

(委員) 枝下の方が合成樹脂というのはあまり美しくない。  
地元も長期的な観点にたち、耐久性も理解して事業を行っているのか。

(事務局) 費用の面もあり、地元も理解している。

(委員) 隣に低木を一行でも植えるスペースはないのか。

(事務局) 民地との関係も出てくる。

また、樹木の特性も関係してくる。照度がとれないと生育もしないし、密集すると病気の発生も懸念される。自然のものだけで防風機能が果たせると美しいのだが、今回は自然と人工を組み合わせる防風対策を行うということで進めている。

さきほどの事業期間が長いというご指摘についてであるが、できるだけ短期間での工事完成、早期の効果発現を考えて進めている。

(委員) 土壌から考えてここは樹木が育ちにくい場所だろう。美観上は落葉樹がきれいだ  
が、ここは落葉樹は育たない土地だろう。風に強くて全体に茂っていく福井県独自の防風林を林業部門とも連携して開発してはどうか。ただ、今のところは防砂ネットでの整備になるのかと思う。

(委員) 観光面の効果も考慮すべきである。ラッキョウは花が咲くとラベンダー畑のように美しくなる。当座の事業費の縮減等もあると思うが、長期的なビジョンというか、50 年ぐらい先を見てどうしてもこの投資は欲しいとか、ここは譲り合おう等、地元の方々も交えて協議していくべきだろう。

(委員) 農業関係の投資は生産額でみると、効率が悪い投資となっている。それを責めるつもりはないが、もともと採算に合わない分野だからこそ観光など農業産出以外の効果を長期的に広い目で考えていくべき。従来の枠を取り払い広い意味での産業施策の中に農業を位置づけると、投資の仕方も変わってくるのではないだろうか。

(事務局) 農業と観光、環境は関連が強い。農業だけでは効果は限られる。今の規模では難しいが、ラッキョウの花も 200ha 規模になるとそれなりの観光商品になるだろう。

(委員) 整備している範囲がとても広い。周囲も整備して一貫性のあるようにした方がよいのではないか。ラッキョウ畑が散らばっているような感じである。整備したけれども、休耕している畑はあるのか

(事務局) 作物の特性があり、2年、3年続けてやれないところもある。観光の面から言うと一面の花畑というのがよいが、なかなかそうはいかない部分もある。

ただ作付するときに景観、美観についても地元とともに検討していきたい。

ラッキョウは生育するのに2年かかり、どうしてもばらつきが出てしまう。

200ヘクタールという畑地の中で、ラッキョウは全体の4分の1から3分の1程度の作付けがなされているが、休耕中の畑以外の残ったところにダイコン、スイカ、メロンなどを複合的に経営している。統一性が取れないように見えるが、集团的に作付しながら、ローテーションで効率的な作付けをしていくよう今後も指導していきたい。

(会長) 最近の事業でよく言われているのは、初期投資がかかっても効果的であり、かつメンテナンスがよければ実施していこうということである。今日の議論

でも出てきたが、メンテナンスは単に農業の面だけでなく、都市計画の面と融合してくるような形にもなる。メンテナンスを広い意味で考えていくことが必要だろう。

なお、この事業では接続する国営パイプラインの完成と当事業の完成にタイムラグがある。地下水には塩分が含まれているという問題もあるが、一方で湧水期に完全にパイプラインの水に依存できるのか、という問題もある。現在の水資源を有効に活用できないのか、地下水の塩水状況を継続的にモニタリングしていくべきである。

(事務局) 国営パイプライン完成後は水源を全面的に切り替える予定で、暫定的に今の水源を使っているが、井戸水については今もモニタリングしている。許容されるのは500ppmまでであるが、計測しながら使用している。

(会長) 塩水の汲み上げ量と塩水浸入の濃度などの関係を計測しながら、有効な水資源の利用を考えてほしい。

(会長) いろいろな意見が出されたことを踏まえて、この事業について、継続、見直し、休止等についての意見をお願いしたい。

(委員) 進捗状況も高く、今日の意見や専門家の意見、あるいは部署を超えて出てくる意見を十分に踏まえて対応していただくということで、継続としてはどうか。

(会長) 本事業は、「継続」と評価する。

〔土木部評価対象事業について〕

(会長) 続いて、土木部の評価対象5事業について説明を求める。

#### [ 道路改築事業(国道158号)について ]

〔事務局から土木部 1の事業内容を説明〕

(委員) 福井、大野を近くしようというのは分かるが、それによって公共交通の方はどんどん足が遠のく。ようやく越美北線が復旧したが、道路が便利になると使われなくなるという相反することが予想される。そういう公共交通の整備計画との兼ね合いを総合的な視点で見ること必要であると思う。

大野、勝山については、中部縦貫が近々完成することになっており、これとの兼ね合いで福井への交通を流すことを考えた方がいいのではないかと。

便利になるからといって、用地取得等により住民の生活環境を変えたり、山を切り崩すなどして、今後も道路整備を進めていくことが、人口減少化社会の中、また、厳しい財政状況の中で適切なのだろうかということについて考えることも必要であると思う。

今回は2,234mの区間の評価かもしれないが、その先では、今後、更に地形の厳しいところの工事も始まっていくことになるのだと思う。引き続き道路を造り続ける事がいいのかといった議論も必要であると思う。

(事務局) 中部縦貫ができることによって、勝山寄りの方にはたいへん便利になる。ただ、奥越全体を考えた場合、特に大野の南部の方にとっては158号も重

要な道路であり、早期整備についての強い要望も聞いている。県としては、県全体を考えた上でも、福井と奥越地域を結ぶ幹線道路として、中部縦貫とともに重要な道路として位置付け、整備を行っている。

(委員) この事業の評価に当たって、この場で、交通体系の中での位置付けから議論するのはなかなか難しいとしても、道路とか河川は繋がっているものであり、前の計画でここまで来て、今後の計画でこうなっていくという姿を見せてもらわないと、評価が難しい。

ここの何 km はどうか、もう 80%できているけどと言われると、続けてくださいとしか言えない。それをずっと積み重ねていくと、いつのまにかいらぬものを全部造ってしまい、前ができていたらここも必要、ここも必要という議論になってしまう。今日はいいが、今後、繋がっているものに関しての評価の場合は、全体計画の中でのここ、ということについての説明がいるのではないかと思う。

(事務局) 現在の事業区間は、福井・大野間のうちの福井市奈良瀬町から境寺町までのものであり、境寺から大野寄りで一部未計画の区間が残っており、そういった説明も必要であったかと思う。

(委員) まだ先が残っているということだが、今日は評価していないが、別の計画で進んでいるのか。

(事務局) 現在の区間が終わった後に、別途、必要性やルート、どのルートが一番安くできるかなど検討していくことになる。

(会長) 事業によっては、再度、再評価を受けるものも出てくると思う。また、区間を区切って事業化されるものもあると思う。長期にわたる事業については、今後、全体計画の中のどの部分か、どういう位置付けのものかなどを説明していくようなやり方にしていく方がいい。検討してほしい。

(事務局) 先程の車と鉄道(越美北線)との関係については、鉄道は、学生とかお年寄りなど、車での移動が困難な方の利用が多い。一方、通勤される方は車が多いなど、いろいろな方がおられることから、どちらも重要と考えている。

(委員) 今後越美北線を残していくには、現在車を使っている人も越美北線に変えてもらうようなことまでしないといけないと思う。そうでないと、今後、公共交通機関は成り立たないと思う。

その議論は、今、この箇所の評価においてすることはできないと思うが、今後の事業を考える場合の検討に加えてほしいと思い、述べさせてもらった。

(委員) 経済、産業の面から見た場合、福井の交通網は鉄道も含めて南北に発達していることから、県内でも地域間格差が生じており、東西のラインもできるだけ早く整備していくことが必要であると思う。交通網の整備により、新しい産業につながるということも考えられる。

(会長) いろいろな意見が出されたが、この事業について、継続、見直し、休止等についての意見をお願いしたい。

(委員) 今回のこの事業については継続としていいのではないか。

(会長) 本事業は「継続」と評価する。

なお、今後、長期にわたる事業については、全体計画等においてどのような位置付けになっているかを明確にするということについて検討してほしい。

[ 街路事業（福井縦貫線（幸橋））について ]

〔事務局から土木部 2の事業内容を説明〕

- (委員) 長い間かけて投資を行い、待ちに待ったものができ、便利になった。ただ、きれいではない。新しくはなっているが、周辺を含めて、きれいではない。それがなぜと言われるとうまく説明できないが、「おお、いいものができた」という感じにはなっていないように思う。まだ残っている工事でどこまでのものができるとは分からないが、専門家の方にも見ていただき、多くの県民、市民の意見も聴かれて、いいものに仕上げしてほしい。
- (事務局) 橋の景観、デザインについては、景観検討委員会を作り、その中のワーキンググループに地元の方にも入っていただき決めてきた。歩道も広く6mあり、人が集まってくるような橋にしたいということで橋詰広場も整備していくこととなっている。現在、まだ四隅ができておらず、親柱等ができていない状況である。こうしたものが完成してくると、よりいいものになってくると思われる。
- (会長) これについては、事後評価という形で、実際に、できる前と後の評価の違い、あるいは評価通りであったとか、今の意見も参考にしてよく検討することをお願いしたい。
- (委員) これは感想ですが、あの場所は中心市街地の中にあるが、車優先の道路だと思う。どれだけ車が円滑に通行できるかということの方が、歩行者がどれだけ歩きやすいかということよりも重視されている道路であり、交差点、橋であると思うので、その辺の兼ね合いを考えたほうがいいのではないかととも思う。そういう意味で、お金をかけて景観とか表面の整備をしたのであれば、それがより効果を発現するように、廻りの別のプロジェクトとの連携等についてよく議論し、もっと中心市街地のほうにたくさん人が歩くようにしてほしいと思う。
- (委員) 開通してからよく歩くが、歩道が水平ではなく、斜めになっているのが少し気になる。
- (事務局) 水勾配の関係で傾斜をつけている。通常の歩道と同じ勾配で施工している。
- (委員) 人が歩くには普通であっても、車いすやベビーカーにとってはつらい場合がある。  
人が集まるような、人がより歩いてほしい橋や道として整備する場合は、少しでも傾斜を減らして水を捌ける工夫をしてほしい。今後の事業においては、十分考慮してほしい。
- (会長) 以上のような意見を踏まえ、この事業について、継続、見直し、休止等についての意見をお願いしたい。
- (委員) 継続としていいのではないかと。
- (会長) 本事業は「継続」と評価する。

[ 敦賀港侵食対策事業（松原地区、常宮・縄間地区）について ]

〔事務局から土木部 3、4の事業内容を説明〕

- (委員) 常宮・縄間地区については、住民に直接被害が及んでおり、整備が重要であると思うが、松原地区の養浜は性格が少し違うように思う。
- (委員) 養浜について、汀線を現在より6m前出しした段階で効果を検証し、ということだが、6mの前出しはいつ頃できるのか。
- (事務局) 今の計画では、現地に合う砂を入れ、全体で12m前出しを行う予定であるが、23年度までに、半分の6mの前出しを完了させ、その効果について、24、25年度の2か年で検証したいと考えている。  
その検証結果によっては、それ以降の更に6mの前出しについて、コスト縮減が図られる可能性もあると考えている。
- (委員) 前出しした部分は毎年減っていくと思うが、前出し効果の検証というのは、別ものを持ってきて検証するのか、減っていく度合いを検証するのか。
- (事務局) 減っていく度合いの検証もすることになる。  
6m前出ししたときに汀線がどう変化していくか、沿岸流により西の方から東の方へ砂が移動するという現象が想定されるが、そのスピード、また減っていく度合い等もしっかり検証して、次の6mの前出しに生かしていきたい。
- (委員) 6mの前出しをやったときに、次の6mの前出しをやるための条件としては、どういうことを考えているか。  
ここまで行ったら効果があったとして更に6mやり、12m完成したときは何年で消え、また同じことがいつ繰り返されるかということの想定がないといけないと思うが。
- (事務局) シミュレーションでは、12mの前出しをやることによって、最終的に砂は西から東に移動するが、あくまで、このエリア内に止まるだろうという結果が出ている。  
西側は少しずつ取られる現象が生じると思われるが、東側に溜まってきた砂を再度、西側に持ってくることによって、相当コストを縮減して汀線を確保できるだろうと考えている。  
また、単に沿岸流だけでなく、引き波によってとられるということも想定されるが、この海岸の地形でのシミュレーションの結果では、ほとんど東側に移動するだけで止まるだろうという見通しを立てており、そういったことを、まず、6m前出しという中で、本当にそういう現象で納まるかどうかということを検証したいと考えている。
- (会長) 海浜変形というのは、ある程度シミュレーションできるようになっているが、今言われたのは、本当にメカニズムとして正しいかどうかを検証するために、6m前出しをして、海浜変形の状況をシミュレーションと比較検討することであり、その検証により、今後、12m前出ししたらどうなるかが精度良く評価され、対策の効率化等の検討も可能になると思う。
- (委員) こうした海浜変形は、温暖化の影響の一つとも考えられ、全国的な問題でもあると思うが、対策の設計等に対する国の指導はあるのか。
- (事務局) 北陸地方整備局の指導も受けながら整備を進めている。  
例えば、福井港でも石油備蓄基地の前面が侵食を受けており、国直轄で対

策工を行っているが、全体計画を立てて、途中途中でしっかり検証しながら、現象を見極めながら工事を進めていくというやり方で行っている。

- (委員) ここでの費用対効果は3.1となっているが、どのような考え方で算出されているのか
- (事務局) 気比の松原には、1万7千本ほどの黒松、赤松が植栽されており、背後に砂が飛ばないようにする役割を担っている。養浜事業を行わずに、砂がどんどん取られていくことにより、松林に相当の被害が生じ、結果的に地域住民にも被害が及ぶこととなる。そういった要素を効果として積み上げ、費用対効果を3.1としている。
- (委員) 一方で、海洋の生態系に与える影響等、マイナスの要素もあるのではないのか。
- (事務局) 汀線の12m前出しによる砂浜に生息する生物等への影響については、県立大学の先生の指導も受けているが、今回の12m前出しについては、大きな影響はないということで意見をいただいている。
- (委員) 6m前出し後の検証では、生態系に関する影響の検証も行うのか。
- (事務局) 生態系に関しても検証していきたいと考えている。
- (委員) 生態系は、砂浜の一部だけでいいのか。客土してくる分も含めて、土の問題とか、地下水の関係とかはどうか。
- (事務局) 他から客土してきた土が地下水に影響を与えて、背後の松林に影響がないかということについて、今年度も一部調査を行っており、引き続き取り組んでいく。
- (委員) 今、福井県中、侵食を避けるために、海岸線をコンクリートで固めている。この状況でいくと、ずっとやり続けないといけない。一般的な調査だけを行うことは難しいと思うが、こういう工事をやっていく中で、例えば今回の場所でも、何十年か後にまた同じ工事をしなくて済むように、何か根本的な対策につながる調査を行い、しっかり原因究明をやっていただきたい。
- (会長) いろいろな意見が出されたが、この事業について、継続、見直し、休止等についての意見をお願いしたい。
- (委員) これについては、継続でいいが、今までの話から、松原地区の養浜については、汀線の6mの前出しをやって、その結果を見て、もう一度、その後の計画について、この評価委員会で評価する必要があると思う。そういう前提での継続ということになると思う。
- (会長) 今の意見を踏まえ、松原地区については、完成が29年度ということでもあり、ちょうど6m前出しの検証時にもう一度再評価が必要になることから、6mの前出し効果等の検証を踏まえ再評価することとする。  
今回の評価において、松原地区、常宮・縄間地区の侵食対策事業については、「継続」と評価する。

#### [住宅市街地基盤整備事業(芳野川)について]

〔事務局から土木部 5の事業内容を説明〕

- (委員) 災害という視点からは、もっと危険なところはたくさんあると思うが、この事業が進められたのは、福井市が行った土地区画整理事業が背景にあると



思う。

土地区画整理事業があるから、県としてはこの河川事業をやらざるを得なかったということではないかという想定の下で話をすると、これこそが今、一番問題になっていることであると思う。

区画整理は市の事業、だけど、これにより県の事業もやらなければいけないくなる。国と県の関係でも同じであり、ここに公共事業の進め方に関する問題点が集約されているような気がする。

(事務局) 確かに、ここで区画整理事業が立ち上がるということが、事業に着手する契機となったが、芳野川自体は、もともと改修しなければいけない箇所とされていた。入り口のところから市街地が貼り付いているので、なかなか踏み出せなかった箇所である。それが、区画整理と一緒にやれるということで、着手することになった。

(委員) 治水といった観点から、県全体の河川改修のプライオリティ上も、上位にあったものが。

(事務局) 当時のランク上、最上位であったとまでは言えないが、当時から河川改修が必要な箇所であり、区画整理に合わせてやることにより、効率的に実施できている。

(委員) これからどんどん予算が減っていく中で、常にプライオリティが必要になってくる。そういう認識を持って進めることが必要であると思う。

(事務局) 県の現在の河川改修事業については、基本的に河川整備計画というものを作り、これに基づいて整備を行っている。

河川改修事業費との関係もあるが、今後の河川整備計画について、現在、今後20年間の内に整備すべき河川等、学識経験者や住民の意見もお聴きしながら、ほぼ作り終わった状況であり、その中で、どの川を改修すべきかという議論もいただいている。そうした中で福井県全体の治水安全度をレベルアップしていくということを考えている。

(委員) 全部をアップしていくというのは当然だが、今までのように大きなお金が使えない時代が今後も続くわけで、こういう評価委員会ができたことも、プライオリティをきっちりつけて評価を見ようということだと思う。

(事務局) 現在、先の福井豪雨等で被災した箇所を優先して事業採択を行っており、今後も優先度を見極めた事業採択に努めていく。

(委員) 別の視点になるが、せっかくこうして市街地の河川改修ができたのだから、できることなら河岸にふさわしい花が全体に咲き誇っているようなものにし、川の魚が増えるような維持管理を、地元の協力によってできるような、そういった体制作りも進めてほしいと思う。

生き物観察会などが行われているということだが、どういう経緯で立ち上がったものか。住民側の主体的なものか

(事務局) 住民の自発的な活動として立ち上がり、活動が行われている。

(委員) 従前の川の写真を見るとコンクリートが入っており、過去にも改修しているのではないか。

(事務局) 部分的に災害復旧等で改修した箇所もある。

(委員) 一回手を入れても、また何十年後かに手を入れないといけなくなる。今回造ったものは、あと何十年持つのだろうということが気になる。

宅地化が進めば保水力が低下したりする。いろいろな問題から災害が発生しやすくなり、偶然に災害が発生してしまうと、また工事が必要だという話

が出るようなことになるのはあまりよくないと思う。

川を改修して自然に親しむということと同時に、地域の方には、川というのはいつか氾濫するかもしれないということをごきちんとしていただくことも必要だと思う。河川改修しても洪水が起こらなくなるわけではない。それが十分に理解されず、税金が使われているという現状もあると思うので、もう少し、工事による限界も知っていただき、例えば、駐車場をアスファルトやコンクリートで固めるのではなく、自宅の中の保水力も上げてくださということなども含め、地域の方と交流しながら、土木工事ができるだけ必要のないやり方を展開していただきたいと思う。

(事務局) 現在、50年に一回の豪雨に対応するものとして整備しているが、それで絶対大丈夫ということではない。それをオーバーする分については、河川改修についての住民説明会の中で、50年に1回以上の雨に対しては当然、氾濫しますということを説明し、理解を得る中で、ソフト的な対策として、氾濫した場合にどうするかということの話をしながら進めている。

芳野川の現状は、2年に1回程度の豪雨にしか対応できない治水安全度であることから、これでは住宅地内を流れている川としては低すぎるということで、整備を進めている。

(委員) 今の気象データの中での50年に1回ということだと思うが、今後気候が変わっていくということを前提にすると、例えば20年に1回程度の雨での氾濫ということになってしまうかもしれない。そうしたときにまた工事をするようになるのかということが聞きたかった。

今、この事業の継続に当たってということではなく、今後の公共事業を決定していく中での議論に加えてほしい。

(会長) いろいろな意見が出されたが、この事業について、継続、見直し、休止等についての意見をお願いしたい。

(委員) 継続としていいのではないか。

(会長) 本事業については「継続」と評価する。

#### [まとめ]

(会長) 以上、審議対象となっていた農林水産部1事業、土木部5事業について、審議の結果、いずれも「継続」という結論になった。

県においては、本日出された意見等を踏まえ、今後の事業実施に当たっていただきたい。

また、個々の事業そのものだけでなく、全体計画、長期計画等の中での位置付けということの質問も多かったと思う。例えば、河川の問題であれば、河川整備計画がどうなっているのか、その中で、今、優先度についてどのように考えているのかといったようなこと、公共事業がどういう形で行われているのかという説明も必要であると思う。評価の前にそういったことが聞ければ、委員の方も評価に当たり、より意見を出しやすくなると思うので、次回に向けて検討をお願いしたい。

(5) 閉会